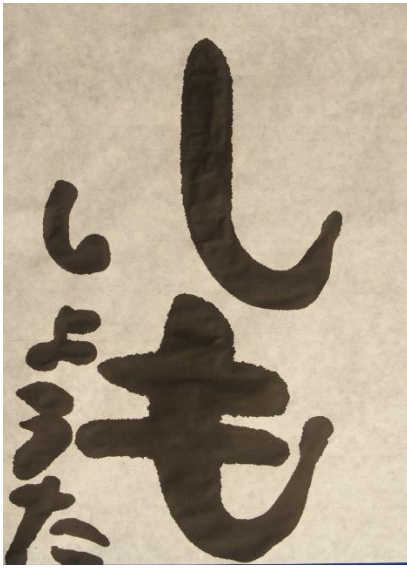
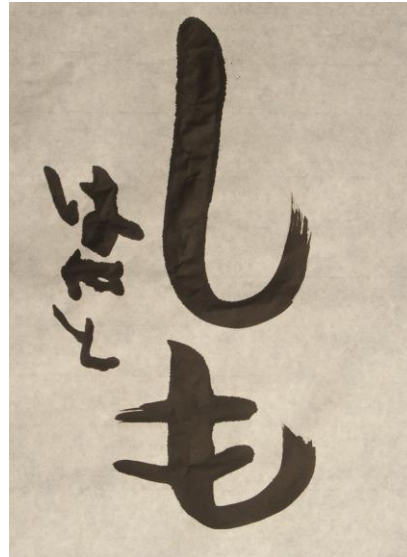


書道作品

評 藤波礼子



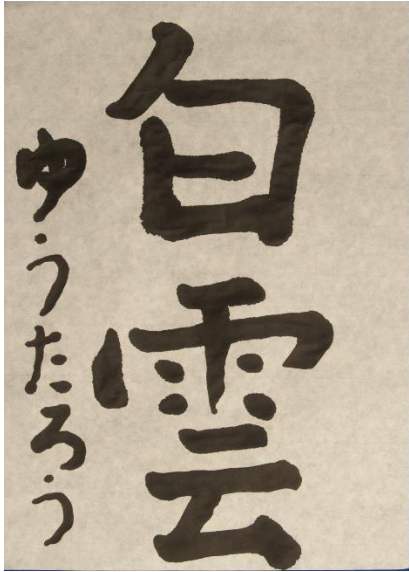
年長 M・S



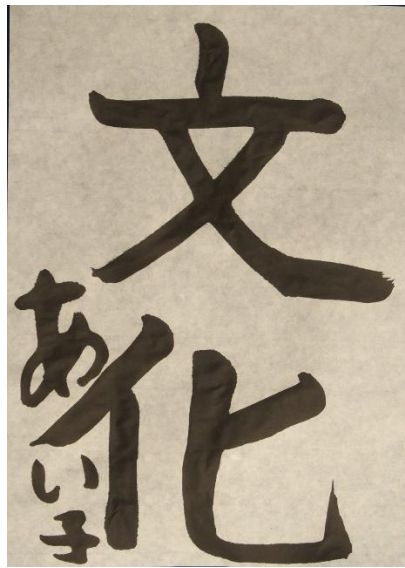
年長 H・H

Hくん 思い切って「し」を書きましたね。筆の入れ方、曲がりがよくできています。

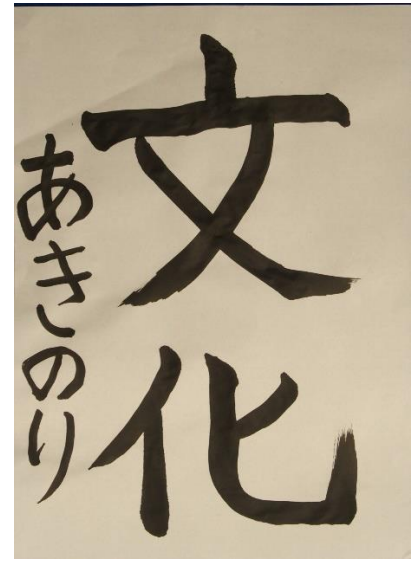
Sくん 墨をたっぷりつけて、紙全体をみながら、バランスよく力強く堂々と書いています。



4年 Y・Y



3年 M・A



3年 H・A

A君 点や線の向きをお手本をよく見ながら丁寧に書いています。線質が美しいです。

Aさん 伸びやかな線質です。筆を立て、紙いっぱい堂々と書いています。おおらかな作品です。

Y君 一線一画ていねいに心を込めて書いています。空間の豊かさがあり、素晴らしい作品です。

【筆使いなどについて】

☆紙全体を観る為に文鎮は右上に斜めに置きます。

☆半紙の左手前を左手で軽く押さええます。

☆自分の字より手本の方を良くみましよう

☆筆は立てて持ちます。

☆まず、半紙から飛び出る位に大きくのびと書くようにしましょう。恥をかく決心をすることでできます。

☆筆を入れたら少し動かして穂先を立てます

☆止めは押しつけるのではなく、少し筆を動かしながら、全体を親で止めます。

☆ハネも全体を見ながら最後のピンとしたところで速くはねます。

☆横画はゆうゆうと、地平線や水平線を観るようなつもりで。

☆縦画はどっしりと柱のように。体ごと引くような感じで書きます。押し付けずにしつかりと止めます。

☆左払いは、筆をゆっくりめに入れて穂先を立ててから大きな円の切れ端のような感じに書きます。速めに書きます。

☆右払いはゆっくりと、手本の線の動きを観察して、最後のハネは速くします。

☆点はじっくりと丁寧に書きます。

☆画数の多い字は細めに、少ない字は小さめに太く書きます。

(「生命の子供」誌十二月号より)

【書を書く前に】

☆半紙と手本がよく見えるようにします。

☆背骨をのびのびと伸ばします。後頭部を通して伸び上がる気持ちで。

☆腰で書くくらいのつもりが良いので腰は柔軟に起こします。

☆背骨と逆に筋肉は脱力して下に落ちていくような感じにしましょう。

☆肩の力も抜きます。

これで手が楽に自由に動くようになります。